

石巻専修大学

「石巻専修大学」ホームページ: <https://www.senshu-u.ac.jp/shinomaki/>

石巻専修大学
広報係
☎986-8580
宮城県石巻市
南境新水戸1番地
☎0225-22-7717(直)

最新の
情報は
大学HPで。

「異文化コミュニケーション論」特別授業

技能実習生を招き「多文化共生」学ぶ



ウエンさん(奥右から2人目)とエルリナさん(3人目)の話高校生と大学生が熱心に聴講した

人間学部が目黒志帆准教授が担当する「異文化コミュニケーション論」は、「人の移動」に注目し、移民・難民をめぐる諸問題を取り上げながら多文化共生のありかたを学ぶ授業だ。

12月7日は石巻市の協力のもと「技能実習生と考える石巻」と題した特別授業を実施。技能実習生として市内で水産加工業に従事するダオ・ティ・ウエンさん(ベトナム出身)とニ・マデ・エルリナ・クスマ・ワルダニさん(インドネシア出身)を招き、話を聞いた。

はじめに石巻市復興企画部地域振興課の岡田桂奈さんが、石巻市における外国人の受け入れ状況について、続いてみやぎオーバースー協同組合専

務理事の國分貴之さんが、技能実習生の受け入れ状況や多文化共生の取り組みなどについて説明した。

その後、ウエンさんとエルリナさんを受けて座談会形式で、技能実習生と石巻の未来について率直な意見を交わした。

授業には、同科目を履修する学部生のほか、宮城県松島高校の生徒なども参加し、地域の多文化共生について学んだ。尾内梨穂さん(人間1・鹿児島県屋久島おおぞら高)は「報道からは分からない技能実習生のリアルな声を聞くことができた。多文化共生を実現するためには多文化に触れることが必要と感じた。石巻には技能実習生や外国人の方と交流できる場があるので、今後参加してみたい」と感想を述べた。

視線計測で若者の観光対象を調査

経営・三橋助教

経営学部情報マネジメント学科の三橋勇太助教が主導する、石巻市の観光地・観光施設を対象とした視線計測実験が進行中だ。被験者として本学学生も協力している。



計測実験を行う学生。右は装着した機材

実験では、GPSとメガネ型のデバイスを装着した学生が、いしのみき元気いちばから日和山公園までの約1.5kmを歩き、その間の視線の動きなどを計測。ルート上の何を

見て、何に興味を示したのかを解析し可視化することで、石巻市の観光活性化に役立てる。

三橋助教は「視線計測を通じて、観光地に対する若者の潜在的嗜好を把握する挑戦的な研究。今回得られた結果を観光地側と共有することで、観光ルートの整備や商業施設における展示物・土産物の効果的な配置の一助となることが期待される」と話している。

理工・辻准教授 動植物の魅力解説



辻准教授の講義

講師を務める「石巻の動物博士になる」をテーマに授業。辻准教授は自身の研究・経験を踏まえ、金華山に暮らすシカやサルについて説明したほか、写真を見せながら世界中の変わった動物などを紹介した。

その後、教室と実験室に移動し、演習林で撮影した動物の画像上映や動物の糞を分析するワークショップなどを実施。子どもたちは目を輝かせながら取り組むとともに、質疑の時間には多くの質問を寄せていた。



ワークショップを行う辻研究室の学生

留学生が課外活動

平泉訪れ日本文化学ぶ

国際交流センター主催の留学生による課外活動が12月3日に行われた。この活動は毎年実施し、世界遺産である岩手県平泉町の中尊寺と毛越寺を訪れた。

当日は、中尊寺で讃衡蔵や金色堂、毛越寺で宝物館や浄土庭園を見学。金色堂の豪華な装飾や毛越寺の「大泉が池」に映る木々の美しさに感嘆の

「交換留学生ピアサポーター」の日本人学生8人声があがった。また、建

世界遺産・中尊寺金色堂の前で記念撮影



明する場面もあり、異文化理解と親睦を深める貴重な時間となったようだ。

参加した留学生からは「約900年前から続く平泉町の歴史や文化に触れ、改めて日本の歴史に関心を持った」「文化財周辺の景観に合わせた配慮された看板の色遣いが興味深かった」など

物の由来や留学生が引いておみくじの意味について、ピアサポーターが説の感想が寄せられた。

緊急フードパントリー 在学生に食料支援



多くの学生が支援物資を受け取った=11月4日

合会コープ東北サンネット事業連合コープフードバンク(宮城県富谷市)の協力を受け、カップ麺とスティックコーヒーを無料で提供した。

4日は、1人につきカップ麺12個とスティックコーヒー4袋を約400人に配布。学生は好みの商品を選び、持ち帰った。中津山悠真さん(人間2・岩手県千厩高)は、「一人暮らしをしているので、食費の足しになり大変助かる。またこのような機会を設けていただけたらありがたい」と話した。

今後の実施についてはin Campusで。

グループワークの成果を発表する学生たち



経営・庄子&丸岡ゼミ 東洋学園大と合同ゼミ

女川町の活性化策議論

経営学部経営学科の庄が東洋学園大学(東京都)子眞岐ゼミと丸岡泰ゼミグローバル・コミュニケーション

3ゼミ合同で実施された。当日は庄子ゼミ10人、丸岡ゼミ8人、泰松ゼミ6人が参加し、講演、視察、グループワークを通じて、女川町の現状と未来について考えた。

学生たちは実際に女川の街を歩き、震災遺構と保存されている旧女川交番、きれいに整備された街並みや港などを視察。着実に進む復興の様子を体感した。

同町で震災復興支援や地域活性化に取り組むNPO法人アスヘンキボウの松平恭典さん(令3経)から具体的な活動内容について説明を聞いた。

後、学生たちは「女川町の活動人口を増やすためには」というテーマでグループワークとディスカッションに取り組んだ。

本学学生たちが持つ被災地の「中」からの視点と、泰松ゼミ生の「外」からの視点、それぞれの立場から意見を交換することで、新たな考え方を得る好機となったようだ。

庄子ゼミ3年次の阿部祐弥さん(宮城県石巻好文館高)さんは「女川に對する見方や捉え方について、都市部に暮らす泰松ゼミ生と地元の人たちでは異なる部分も多く、今回の交流会を通じて視野を広げることができた」と成果を語った。